

# 実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校(5校)

## 【武雄中学校】

### 1 生徒の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H27入学 現1年	72.7 (0.99)				66.0 (0.93)				
H26入学 現2年	70.6 (1.01)	66.9 (0.99)			66.9 (0.95)	53.8 (0.94)			
H25入学 現3年	68.7 (1.00)	61.9 (1.02)	72.7 (0.98)	60.7 (0.96)	70.6 (0.98)	45.4 (0.96)	60.5 (0.98)	37.7 (0.98)	47.2 (0.95)
H27 正答率の全国比			(0.96)	(0.92)			(0.94)	(0.91)	(0.89)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<p>&lt;学習状況調査において県を上回った点&gt;</p> <p>① どの教科も、基本的な問題に対する理解は定着している。</p> <p>② 「教科が好きである」「将来役に立つ」「授業内容が分かる」等、意識調査における「教科に対する興味・関心」はどの学年も高い。</p> <p>&lt;学習状況調査より読みとれる課題&gt;</p> <p>① 「複数の情報をもとに自分の考えをまとめる問題（国・理）」や「資料をもとに理由を考える問題」に無解答や誤答が多く、表現力に苦手意識等の課題がある。</p> <p>（理：風力を読み取り自分で考察を考える問題      数：数的表現を用いて理由を説明する問題など）</p> <p>② 観点別に見ると、国語では「話す・聞く」、数学では「数学的スキル」、理科では「観察・実験のスキル」が低い。</p> <p>③ どの教科をみても、「知識に関する問題」よりも「活用に関する問題」の方に課題が多い。</p>	
---	--

<意識調査において県を上回ったところ：家庭で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
家の手伝いをしている。	82.5%	79.6%	昨年度よりも向上し、基本的生活習慣が整っている生徒が増えたことが分かる。
朝食を毎朝食べる。	94.9%	94.7%	
寝る時間が決まっている。	77.8%	77.2%	
地域の行事によく参加している。	66.8%	63.0%	昨年度と同様県平均より高い。

<意識調査において県を上回ったところ：授業で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
授業では「めあて」と「まとめ」が提示される。	90.4%	81.5%	理解につなげる授業の工夫がなされている。
I C Tを使った授業が楽しみだ。	79.8%	72.2%	

<意識調査において県を上回ったところ：日常生活で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
将来の夢や希望を持っている。	81.0%	73.0%	昨年度と同様県平均より高い。

<意識調査より読みとれる課題：家庭学習で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
平日1時間以上の家庭学習をする。	55.0%	67.0%	家庭学習ができていない。 授業の予習や復習を毎日している生徒の割合も低い。
土日2時間以上家庭学習をする。	27.0%	38.0%	
毎日宿題をする。	82.0%	92.0%	

<意識調査より読みとれる課題：授業で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
後で解き方が分かるノートの取り方をしている。	77.6%	83.2%	ノートの工夫が足りない。
考えを発表したり説明したりすることは難しい。	71.0%	79.2%	自分の意見を発表することに苦手意識を感じている。

<意識調査より読みとれる課題：日常生活で>

	本 校	県	結果から見えてくるもの
「最後までやり遂げたからよかった」と思える経験をしたことがある。	62.0%	73.4%	成就感・達成感を味わう経験が不足している。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり，指導方法の改善・充実のための重点取組

- ① 各教科で1回ずつは授業研究会を行い，教師の授業力向上につなげるとともに，生徒の学習規律と学習スキルを高める研修を計画的に実施する。
- ② 授業の「ねらい」「まとめ」「ノート指導」を習慣化する授業づくりを校内研究の中で進めるとともに，電子黒板・タブレット・電子ペンを活用した授業の工夫を図る。
- ③ 国語においては，「自分で考えて説明する問題」への対策として，まずは自分の考えを表現できるようにするために，身近な話題や考え易い課題を設定し授業の中で書く活動や話し合う活動を取り入れる。
- ④ 数学においては，ICTの利活用を積極的に行い，視覚的に捉えさせながら自分の考えを説明する時間を授業の中に設定する。
- ⑤ 1年生数学においては，理解の低い生徒層が多いためTK式検査を行いつまづき箇所を洗い出して，個別指導やグループ学習等を取り入れながら授業形態を工夫していく。
- ⑥ 理科においては，話し合い活動の充実を図るために，共通課題をグループで解決させ電子黒板などのICT機器やグループ別のホワイトボード等を活用し，図などを用いて説明する活動を授業に組み込む。
- ⑦ 授業内容とリンクした課題の出し方を職員で研修し，スマイル学習の充実を図り，理解と定着につなげる。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ① 家庭学習の重要性を呼びかけ，各家庭にも協力をあおぐ。また，家庭学習の充実のために，教科別ルーティンを決め，家庭学習の習慣化を図る。
- ② プレテストやテスト計画表の作成などを行い，テストに対する意識の向上を行うことにより「やればできる」体感につなげる。
- ③ 「先輩と語る会」や「職場体験」さらに「叶夢プラン」の取組を充実させることにより，キャリア教育の充実を図り，学ぶ意義を感じて主体的に学ぼうとする意欲を高める。
- ④ 朝学習と武中タイムを充実させ，基礎・基本の学力の定着のための継続的な取組を図る。

## 【武雄北中学校】

### 1 生徒の実態

(1) 全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査[4月実施]結果の推移

	国語				数学				理科	
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		1年時	3年時
			A問題	B問題			A問題	B問題		
H27 入学 現1年	83.9 (1.15)				82.1 (1.15)					
H26 入学 現2年	64.8 (0.92)	62.5 (0.92)			63.7 (0.90)	60.0 (1.05)				
H25 入学 現3年	71.4 (1.04)	59.8 (0.99)	74.7 (1.01)	65.9 (1.04)	70.2 (0.97)	51.3 (1.08)	66.0 (1.07)	43.6 (1.13)	65.2 (1.06)	53.1 (1.07)
H27 正答率の全国比			<0.99>	<1.00>			<1.02>	<1.05>		<1.00>

- ※ 1、2年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3年時は全国学力・学習状況調査の結果。
- ※ 上段は平均正答率、下段の（ ）は県平均を1.00としての比較。
- ※ 「H27 正答率の全国比」の〈 〉は全国平均を1.00としての比較。
- ※ 理科の前回実施は、平成25年4月。

(1) 学習状況調査及び意識調査から読み取れる実態

ア 学習状況調査

- (ア) 1年生の国語及び数学については、県平均を大きく上回っている。
- (イ) 2年生は、昨年度と同調査では国語、数学とも県平均を下回っていた。今年度は、国語は課題が残るものの、数学は県平均を上回り改善している。
- (ウ) 3年生は、国語A及び国語B、数学A及び数学B、理科の全区分で県平均を上回っており、特に、国語B、数学A、数学B、理科については、全国平均を上回っている。

イ 意識調査

昨年度と同調査で、学力との相関がみられる傾向にあった項目の「家庭学習時間」、「ゲームをする時間」、「家での家族との会話」について、次のような結果である。

- (ア) 「学校の授業時間以外の普段（月曜日から金曜日）の勉強時間」について  
2年生は、県平均と比べて家庭学習の時間が長い傾向がある。1年生及び3年生は、県平均と比べると「1時間以上2時間未満」の割合は多いが、「3時間以上」勉強している割合は小さい。特に、3年生は、1年時の同調査で経年比較すると勉強時間が少なくなっている。
- (イ) 「普段の1日にテレビゲームをする時間」について  
全学年とも、県平均と比べて、ゲームをする時間は少ない傾向がみられる。ただ、3年生の一部に「4時間以上」している生徒がいる。
- (ウ) 「家の人と学校での出来事についての会話」について  
3年生の結果で、全国平均に比べて家族との会話が少ない傾向にある。調査開始の19年度以降、全国的には増加傾向がうかがえる中、本校3年生は「全くしない」と回答した生徒は全国平均の2倍以上の6名いる。

## 2 改善に向けた具体的な取り組み

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取り組み

- ア 研究主任と連携して授業研究を行う。
- イ タブレット端末の導入により、ICT利活用のより効果的な利用方法を学ぶ研修会を行う。
- ウ スマイル学習を推進した協働学習や言語活動をテーマにした西部型授業を行う。
- エ 全職員が、年に1回は研究授業を行い、授業力の向上に努める。

### (2) 授業以外における生徒の課題改善のための重点取り組み

- ア 家庭学習課題の与え方の工夫  
与えた家庭学習課題をやり遂げさせるために学級別宿題提出率の掲示や学級内小グループでの自主学習ノートリレー等の取り組みを行う。
- イ 努力が結果に結びつかない生徒への対応  
テスト後に機会を捉えて学習相談を行い、学習方法等の助言を行う。また、e-ライブラリーを効果的に利用する。
- ウ Shu-Chu-Train の活用  
タブレット端末を活用し、週に4日、曜日を決めて朝の時間を利用して全校で取り組むことで、授業時間の脳の活性化を図る。



## 【川登中学校】

### 1 生徒の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H27入学	82.3				78.6				
現1年	(1.13)				(1.10)				
H26入学	68.3	67.8			67.1	58.3			
現2年	(0.97)	(0.99)			(0.95)	(1.02)			
H25入学	78.7	71.1	83.1	66.3	76.7	64.4	73.9	50.5	58.3
現3年	(1.15)	(1.18)	(1.12)	(1.05)	(1.06)	(1.36)	(1.20)	(1.31)	(1.18)
H27 正答率の全国比			(1.10)	(1.01)			(1.15)	(1.21)	(1.10)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

## (2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

### ①学習状況調査から見られる生徒の実態

- 1, 3年生においては、全国・県の平均を上回る結果で、2年生においても県と同等まで向上しました。
- 国語の内容・領域別の正答率から見ると、1年生においては「書く」「漢字の書き」「語句に関する知識」が県平均を大きく上回っていますが、「話す・聞く」を伸ばしていく必要があります。2年生においては、「読む」領域は大きく県を上回っていますが、「話す・聞く」「書く」領域に課題があります。3年生においては、全体的に県平均を上回り、非常によい状態にあります。しかし、「漢字の読み書き」を伸ばしていく必要があります。国語全体として、生徒が苦手意識を持っている「話す・聞く」が重点課題であり、授業だけでなく、様々な教育活動の中で意識させ、能力の向上を図りたいと考えています。
- 数学においては、全学年とも県平均を上回っており、よい傾向にあります。しかし、2, 3年生において、「資料の活用」分野に課題があります。この課題については、今年度、全学年でT Tによる授業を実施していますので、T Tのよさを活かしてきめ細かな対応を取って、向上を目指していきたいと考えています。
- 理科（3年生のみ）は、全国・県平均を上回り、よい傾向にあります。他の領域に比べ「地学的領域」に課題があります。このことに留意して、1・2年生時の学習を進めていきたいと考えています。

### ②意識調査から見られる本校生徒（全校生徒）の実態

#### 【設問】将来の夢や目標を持っている。

（考察）本校生徒は、全国や県に比べ、将来の夢や目標を持っているものが多く、昨年度の結果と比べても、持っている生徒の割合は増加しています。

#### 【設問】学校の宿題をしている。

（考察）宿題をしている割合も全国や県に比べ高く、昨年度と比較しても「している」割合は増加しています。

#### 【設問】家で学校の授業の復習をしていますか。

（考察）昨年度と同様に、本校では復習を中心とした家庭学習の充実に取り組んでいます。昨年度の結果と比較しても、「している」「どちらかといえばしている」の割合は増加しました。今後、取り組みができていない生徒への指導・支援が課題だと考えています。

#### 【設問】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

（考察）この設問内容は昨年度からの課題で、「タイムマネジメント」「生活記録表」などを使って、計画立てて学習をすることの大切さを学ばせてきました。結果としては、昨年度より若干よくなりましたが、約半分が取り組めていません。改善に向けて、内容を見直し、継続した取り組みを行っていきます。

#### 【設問】今住んでいる地域の行事に参加している。

（考察）全国や県及び昨年度の結果と比較してもよい結果を示しています。今後も、様々な地域行事への参加を進め、地域を愛する気持ちを持った、地域を支えることのできる生徒の育成に励んでいきたいと考えています。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」と「まとめ」を意識した授業展開に心がけ、ノート指導の充実に取り組みます。
- ・本校生徒が苦手としている「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」場면을授業の中に設定し、「話す・聞く」「書く」など言語活動の充実に取り組みます。
- ・授業において、電子黒板やタブレットなどのICT機器を積極的に利活用し、生徒の興味関心、理解を高める工夫を行います。
- ・「授業に生かす家庭学習の充実」を柱にした校内研究を進め、「授業に生かせる課題」や「本校の課題である思考力や表現力を高める課題」のあり方など授業と家庭学習の接続に取り組みます。
- ・全職員で生徒の実態を把握し、課題を共有する研修を実施します。また、授業力向上を目的とした研究授業を各教科担当で年1回実施し職員に公開します。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の習慣づけや家庭での学習内容の充実を目的とした「タイムマネジメント・自学ノートのあり方について」の第2回学びの学習会（1回目は4月に実施）を10月に実施します。生徒に生活の振り返りをさせる「タイムマネジメント」の授業もあわせて行います。
- ・帰りの会の前に10分間の自学自習の時間（テンアップタイム）を帯の時間帯で設定し、授業の復習に取り組みせ、家庭学習との接続を図ります。
- ・他の生徒の学習の参考となるように、自学ノートやテンアップノートのよい取り組みを階段踊り場に掲示したり、学級通信で紹介したりします。
- ・第2回目のQ-Uアンケートを実施（11月）し、生徒や学級の状態をつかみ、学級経営の改善や生徒への支援方法の改善を図っていきます。（1回目は6月に実施）
- ・生徒に生活記録表やテスト計画表を記入させ、保護者に点検してもらったり、コメントを記入してもらったりして、学校と保護者が連携して、生徒の学習習慣の定着に努めます。
- ・生徒会活動や集会、学校行事などを利用して、生徒の課題である「人前で話す」「自分の考えを書く」ことに取り組みせ、生徒が持つ苦手意識の払拭に取り組みます。

## 【山内中学校】

### 1 生徒の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H27入学	72.9				67.6				
現1年	(1.00)				(0.95)				
H26入学	69.6	66.5			72.6	55.2			
現2年	(0.99)	(0.98)			(1.03)	(0.97)			
H25入学	62.9	60.6	68.5	60.1	66.1	42.2	54.1	33.4	40.1
現3年	(0.92)	(1.00)	(0.93)	(0.95)	(0.91)	(0.89)	(0.88)	(0.87)	(0.81)
H27 正答率の全国比			(0.94)	(0.91)			(0.84)	(0.80)	(0.76)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

## (2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

本校の生徒の実態としては、良い結果（◎）、良いとはいえない結果（▲）で、次のようなものがある。

- ◎今住んでいる地域の行事に参加していますか。（20ポイント以上高い）
- ◎理科の授業での実験は週1回以上あった。（30ポイント以上高い）
- ◎授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いていたと思いますか。（10ポイント以上高い）
- ▲友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。（約10ポイント低い）
- ▲将来の夢や目標を持っていますか。（約10ポイント低い）
- ▲自分には良いところがあると思いますか。（20ポイント低い）、
- ▲ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。（20ポイント低い）
- ▲家庭学習において、土日に2時間以上学習する。（20ポイント以上低い）全体の2割程度
- ▲数学の勉強は好きですか。（約15ポイント低い）
- ▲数学の授業の内容はよく分かりますか。（約20ポイント低い）

以上のように、生徒は地域の方々とふれあう機会が多く、地域との関わりの深さを実感している。その一方で、自尊感情が低く約半数の生徒は自分の良いところが見出せていない。また、人前で自分の考えや意見を発表することや指名されてもはっきりと意志表示ができないことが実態である。授業では、理科の実験を多く実施されていることが、観察や実験を好きになることにつながっている。しかし、数学や理科を苦手だと感じている生徒の割合は多いと思われる。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

#### ①西部型授業の実践など

- ・授業の見通しを持たせ、めあての明確化を図る。まとめでは、授業の振り返りと自己評価ができる授業づくりを行う。
- ・校内研での取り組みを生かし、言語活動として「学び合う学習」を取り入れながら、表現力の育成に努める。
- ・「学び合う学習」の視察研修、研究授業、講師招聘を実施し、教員の指導力向上に取り組む。

#### ②学び合いを取り入れたSUT（ステップ・アップ・タイム）の実施

- ・一昨年度から実施していたSUTを継続的に実施して、学び合う学習に取り組む。

#### ③地域との連携

- ・地域の人材を活用し、「地域の歴史学習」「食育学習」などを総合的な学習の時間で実施する。また、キャリア教育の一貫として「マナー検定」「マナー講座」「職業講話」を実施し、人間関係形成力や社会形成能力を向上させる手立てを行う。

#### ④NIE教育の実践

- ・NIE教育を全学級で実施していく。具体的には、「NIEタイム」を設けて、視写やコラージュ作り、新聞読書に取り組む。また、ゲストティーチャーとして新聞社の方を招き、言語活動の充実を図るための授業を展開する。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

①「学び合う学習」の土台となる支持的風土づくり

- ・様々な特徴を持つ子どもたちを、それぞれの個性として認め合う学級づくりを行う。

②発達障害、発達障害傾向や、低学力のこどもたちへの支援

- ・職員の研修を深めるとともに、支援の手立てを工夫する。

③授業の受け方、ノートの取り方、発表の仕方など授業への取り組み方の改善

- ・これまでの学習のふり返りをさせ、学習態度の問題点を意識させる。改善の方法を個人で考えさせるとともに、学級集団としての向上も図る。(帰りの会で授業の評価の発表をさせ、改善策を学級で考えるなどの手立てを図る)

④家庭学習の定着

- ・自学ノートなどを活用し、毎日の学習時間を記録させる。

⑤立腰の取組

- ・本校は20年近く、『立腰教育』に取り組んでいる。小中連携した指導を継続させていき、立腰の「あいさつ」「返事」「後始末」を大切にしていきたい。

## 【北方中学校】

### 1 生徒の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H27入学 現1年	70.2 (0.96)				69.4 (0.97)				
H26入学 現2年	71.9 (1.03)	68.8 (1.01)			70.1 (0.99)	49.3 (0.86)			
H25入学 現3年	66.6 (0.97)	54.0 (0.90)	72.1 (0.98)	64.1 (1.01)	66.9 (1.01)	39.8 (0.84)	56.9 (0.92)	34.7 (0.90)	48.8 (0.98)
H27 正答率の全国比			(0.95)	(0.97)			(0.88)	(0.83)	(0.92)

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎ 「H27 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

#### (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

無解答率は、全国や県を下回っているものの基本的な知識が身につけていないため、正答率が低い。そのため、持っている知識を活用して解く問題の正答率も全国を下回っている。その傾向は、特に数学や理科に顕著に現れている。

宿題を「している」「どちらかといえば、している」と答える生徒の割合や平日、土日の学習時間は全国や県の平均を上回っている。しかし、授業の予習や復習を行うなど自分で計画的に家庭学習に取り組む生徒の割合が低いと、正答率の向上につながっていないと考えられる。また、自分の考えをまわりの人に説明したり、発表したりしている生徒の割合は、全国や県の平均を上回っているものの、自分の考えを他の人に説明したり、原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことに難しさを感じている生徒の割合が、全国平均をやや上回っている。

以上のようなことから、基礎基本の定着の徹底と家庭学習の質の向上が急務である。授業づくりや指導方法の改善はもちろんのこと、宿題の出し方の工夫・改善や家庭学習の方法、学習計画の立て方、時間の有効活用などの指導・支援が必要である。



## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ① めあてとまとめを明確にし、自分の考えを説明する場を取り入れた授業の研究と実践。
- ② TT や単元の特性を生かした少人数指導(習熟度別、等質)の実践。
- ③ 予習課題を生かし、アクティブラーニングをめざしたスマイル学習の実践。
- ④ CPF (クラウドプラットフォーム) を活用した授業の研究と実践。
- ⑤ 生徒の学習意欲を喚起し、自己表現力を高める授業を展開するため、ICT 機器を効果的に利活用するための授業研究会を行い、指導力向上を図る。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ① 全国・県学力学習状況調査の結果分析をもとに校内研修を行い、課題解決・改善に向けた方策を練り実践する。
- ② 朝の時間帯にタブレット端末を活用したドリル学習や「すくすくテスト」を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ③ 家庭学習の内容や学習計画の立て方、学習への取り組み方、ノートのとり方など学び方の指導・支援を根気強く行う。
- ④ 週間学習表を活用し、生徒一人ひとりの生活習慣を把握し、1日2時間の家庭学習が行えるように担任を中心に家庭との連携を深め、全職員で指導・支援する。また、学校だよりやHPで学習時間の集計結果等を公開し、地域や保護者への啓発を図る。
- ⑤ 毎日1ページ以上の自主学習に取り組みせ、「継続は力なり賞」と称し、取組状況がすばらしい生徒を表彰して、計画的・自主的な家庭学習の取組を推進する。
- ⑥ 朝の会や帰りの会で班活動に取り組み、誰もが自由に意見を発表し、知恵を出し合い、議論し、協力する雰囲気をつくり、言語活動を充実させる環境を整える。